知床の窓から見えるもの

待ちに待った第41回ふるさと少年探検隊！！

今回同行させていただくのは探検隊入隊１年目の看護師です。

羅臼町の子どもたちが知床半島沿岸部をひたすら歩いて自然の中で多くの知識、経験を身に付けることが目的です。

参加者の少年少女は基礎体力があると聞いており、私が足手まといになるのではないか、子どもたちから元気をもらえるかなと不安と楽しみいっぱいの旅です。

この場では医療従事者として活躍しなければなりません。今年の7月の羅臼町は高温の気候が続き熱中症も心配です。海風で寒さも気にしなければなりません。怪我や体調不良などあらゆることを想定して医療物品を搬送しないと…と思うとキリがありません。

早朝から漁の作業中でも、町の人たちが大きく手を振って見送ってくれます。

いざ！！出発っっ！！

子どもたちの岩場を歩く姿は足取り軽く、誰も転倒しません。足が痛いと言う子もいません。みんなから遅れてはいけないと意思は強く、お喋りしながらもひたすら歩きます。途中、鹿の死骸や大きな岩場があっても動じません。昆布場の作業をしていても、干した昆布を丁寧によけて進みます。羅臼の子どもたちには見慣れた環境なんでしょうか。

休憩ポイントでは早朝にも関わらず、ご家族が作ってくれたオニギリをほおばっています。行動食に飴、グミ、チョコにジュース、コンデンスミルク、ゼリーと子どもたちなりに工夫した好きなものを持参し、誰一人疲労者は見当たりません。スタッフが持ち合わせた OS-1 ドリンクなんていらないな。

出発して2時間半、第一関門の大きな崖「観音岩」が目の前に。事前練習したロープを腰に巻き、滑落しないように登ります。小学4年生も両手足をいっぱい使って逞しい姿です。サポートする大人たちは子どもたちの力を信じて簡単には手を出しません。応援です！！

と、この先の旅のストーリーはここまで。

7月30日カムチャッカ半島付近地震による津波警報発令。ここは電波がない地域。J アラートなんて聞こえません。スマホの情報もありません。急遽撤退っ！！まずは安全第一！！

漁師さんたちの漁船がお迎えに来てくれて、町の方たちに支えられながら、全員大きな怪我無く帰港しました。

陸上でも住民や観光客の方がたくさん避難されていました。改めて町、診療所の災害対策、看護師としてできる行動を考えさせられた日でした。

では、第42回ふるさと少年探検隊の旅を乞うご期待ください。